

○まえばし 農業委員会だより

第97号
平成31年1月発行



70% 古紙配合率 70% の
再生紙を使用しています

年頭のあいさつ



前橋市農業委員会
会長 堀越 恒弘

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、昨年は7月に新しい農業委員会としてスタートしてから丸一年を無事に迎えることができたのも、多くの方々のお力添えの賜と深く感謝申し上げます。

さて、わが国の農政は今、大きな転換期を迎えています。農業委員会の改革をはじめ、国は農林水産業・地域の活力創造プランの決定をベースに、食料・農業・農村をめぐる情勢に対してさまざまな農政改革を進めようとしています。ところが、農業・農村の現場を取り巻く状況は、農業生産額の減少、農業従業者の高齢化の進行、農地荒廃や自給率低下など極めて厳しい状況でございます。将来の食料生産を担うはずの農業は、気がつけば農地の減少とともに食料供給においても憂慮する事態となっております。

環太平洋連携協定(TPP)に關しては、米国がTPP協定から離脱することを正式に表明したために、米国を除く11か国により協定を見直し、昨年3月に新協定「TPP11」として11か国が署名し協定文が確定しました。今後も経済連携協定(EPA)及び自由貿易協定(FTA)とともにその動向を注視していく必要があると感じます。

今後は、農業委員、農地利用最適化推進委員及び事務局並びに農業委員会系統組織等と連携しながら、農業委員会が一体となり組織体制の強化・充実に努めるとともに、「何ができるのか」「今何をしたいといけないのか」このテーマを自問自答し、その活動を蓄積していくことで農業者や地域の期待に少しでも応えることができるのではないかと考えています。この一年新たな気持ちに立って、地域の皆様とともに頑張つてまいります。

皆様におかれましては、今後とも当委員会への、なお一層のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご多幸を申し上げます、新年のごあいさつとさせていただきます。



農業委員会視察研修を実施

平成30年11月14日(水)

○香川県小豆島

16日(金)に農業委員及び農地利用最適化推進委員33名参加のもと、岡山県・香川県方面へ、有害鳥獣対策や遊休農地解消への取り組みをテーマに視察研修を実施しました。

○岡山県美作市獣肉処理施設「地美恵の郷みまさか」

農作物へ被害を与える有害獣(イノシシやニホンジカ)を駆除した後に、徹底した衛生・安全管理の下で獣肉を食肉処理し、「みまさかジビエ」として有効活用しており、新たな地域資源の確保と雇用の創出に繋がる好循環を生み出した先進的な取り組みを学びました。



地美恵の郷みまさか



オリーブ園にて

「東洋オリーブ株式会社」瀬戸内海を臨むオリーブの圃場や平成30年に導入されたばかりのイタリア製新型採油機について説明を受け、オリーブの栽培から採油、オリーブ商品の生産など一貫生産する状況を視察しました。荒れた農地をオリーブ栽培に活用し、地域のオリーブ振興へ積極的な取り組みを行っていました。いずれの視察地でも、活発に質疑が出されるなど、大変有意義な視察研修となりました。

市長に意見書・議長に要望書を提出

農業施策等に関する要請と市の回答

前橋市農業委員会では、昨年の10月31日、「平成31年度市農業施策等に関する意見書」を山本龍前橋市長に、また要望書を三森和也前橋市議会議長に提出しました。

意見書の作成にあたっては、農業委員、農地利用最適化推進委員、各種農業者団体等から幅広く意見を聴き、総会での審議を経て、取りまとめました。

農業を取り巻く環境は厳しく、災害の発生や担い手不足、鳥獣被害の拡大、農畜産物の価格低迷など厳しい状況が続いております。

農業委員会の役割として、農地利用の最適化のため、担い手への農地の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進に取り組み、農業者の代表として市と連携し、本市農業を振興するため、次の5項目について意見・要望いたしました。

農業災害時の対応について

被災時の農業者の負担を軽減

し、短期間で生活再建をするため、緊急に対応できる財源の確保を図るとともに、経営安定化までの支援策を要望

〈答〉農業災害が発生した際には、生産力の維持及び農業経営の安定が図られるように、関係機関と連携しながら対応する。

認定農業者支援について

重要な担い手である認定農業者が生産意欲の高まった時々で農業用機械等の導入が可能となるよう、十分な財源を確保・配分するなど支援の充実を要望

〈答〉担い手支援事業の補助対象機械の見直しと合わせて、国庫や県単事業の積極的な活用を図り、多くの担い手にとって活用しやすく、効果的な支援を行っていく。



就農者支援の拡充について

高齢農業者や就農者にも意欲と生きがいを持って農地の維持管理ができるよう、シニア層を対象とした農業用機械等購入費の補助を要望

〈答〉高齢農業者や定年帰農者等の多様な担い手に対して、農作業の省力化・効率化が図られる支援策について、関係機関と連携し、引き続き研究していきたい。

野生鳥獣による被害対策について

鳥獣被害防止の支援事業を継続することや、補助事業が利用しやすくなるように採択要件の緩和について県等関係機関へ働きかける。併せて、市内、猟友会員の増員や鳥獣捕獲従事者の育成・確保について、一層の推進を要望

〈答〉要件緩和を含め柔軟に対応するよう県に働きかけを行う。また、狩猟免許の取得補助や猟友会への新規入会の補助など、担い手育成対策について一層の充実を図る。

前橋産農畜産物の販路拡大について

「トップセールス」や首都圏における試食・販売会などの取り組みを継続的に実施するとともに、市外の実需者などに対し、前橋産農畜産物に関する一層の情報発信を要望

〈答〉今後もプロモーション事業を継続的に実施し、市外の実需者や消費者のニーズの把握に努める。また、前橋市農業インスタグラムなどのSNSを有効活用し、積極的に市内外に発信していく。



意見書を山本市長（写真右）に要望書を三森議長（写真左）へ提出しました。



農業まつり開催



前橋市農業委員会は、11月10日（土）に開催された平成30年度前橋市農業まつりに参加し、農業委員と農地利用最適化推進委員が協力して、餅つき、お米無料配布、ポン菓子、中学生以下の子供を対象としたクイズを実施し、市民への米の消費拡大を図りました。

餅の試食では、つきあがった餅をその場で切り分け、あんこや大根おろしを添えて配布し、たくさんの人につきたての餅の味を楽しんでいただきました。

また、子供たちにも餅つきの体験をしてもらい、食の楽しさにも触れる機会となりました。

お米の無料配布では、抽選会により「前橋産米あさひの夢新米」を配布しました。当日は早い時間から長蛇の列となり、用意したお米はあっという間に間になくなってしまいうほどの人気でした。

ポン菓子の無料配布では、専用の機械を使い、できあ



堀越農業委員長と JA 前橋市大塚組合長の餅つき

がったポン菓子を貰うため老若男女たくさんの方が列を成していました。

ポン菓子が出来る度に大きな音が鳴り、周りからは一斉に注目を浴びていました。

クイズコーナーでは、お米の計量クイズ、野菜の花を当てるクイズの2種類を用意し、大勢の子供たちが挑戦して盛況となりました。



「前橋産あさひの夢新米」抽選配布

今年度の農業まつりは、天気恵まれ、たくさんの方々が出席し、農畜産物を使った料理や加工品の販売など大変賑やかで活気付いていました。来場者からも、美味しくくて安心安全な地元の農畜産物が安く買える良いイベントだという声もあり、主催者ともに満足行くイベントとなりました。



「米の計量・野菜の花当てクイズ」に挑戦！



このようなイベントが開催されることで、生産者と消費者の交流が深まると共に、意見交換の場となりました。



女性農業者グループ まえばしマジョーラ

頑張っています!

現在、前橋市農業委員会には4人の女性農業委員がおり、活動しておりますが、今日はほかにも前橋市で元気に農業に取り

組んでいる女性グループをご紹介します。

その名も「まえばしマジョーラ」！30代の若手農業者から70

代のベテラン農業者までの24名の女性グループです。

平成16年「中部農村女性起業ネットワーク」として群馬県や前橋市と連携し、新商品開発や衛生管理研修など研鑽を重ねてきました。平成27年に「マジョーラ」として生まれ変わりました。JR前橋駅での年3回の「まえきマルシェ」や上小出町のギャラリ「ぎやらりー」FROMまえばしでの年2回、春秋の「ギャラリ

マルシェ」では、会員たちの作る農産物、加工品のほか、メンバーのコラボレーション商品などを展示販売したり、会員たちの仕事を体験してもらったり、ちょっとした講演をする「ワークショップ」も開いています。

幅広い知識と経験で魔法のように素敵な何かを生み出そう！ということと魔女ら「マジョーラ」と名付けました。ピンクの生地に黒の魔女の帽子が目印です。

一緒に活動してくれる人、応援してください。前橋で農業している女性、前橋の農産物で美味しいものを作っている女性たちを待っています。一緒に楽しみながら「前橋の美味しい」を発信していきたいでしょう！お問い合わせは、まえばしマジョーラ ぐんま女性アグリ企業ネットワーク会議 <https://www.gagri.jp> または群馬県中部農業事務所普及指導課担い手支援係までよろしくお願いいたします。

(文責 農業委員 矢端晴美)



農地利用最適化

推進委員の

主な取り組みについて

【農地利用状況調査の実施】

法律に基づいて毎年8月から10月にかけて、各担当地域の農地利用の確認、遊休農地の把握と発生防止・解消、違反転用の発生防止・早期発見を目的に、農地の利用状況調査を実施しています。

【利用意向調査の実施】

利用状況調査の結果、「遊休農地」又は「遊休化のおそれがある農地」と判定された農地の所有者等に対して、11月に書面による調査を実施、1月から農地利用最適化推進委員が所有者等を訪問して、今後の利用意向について伺います。

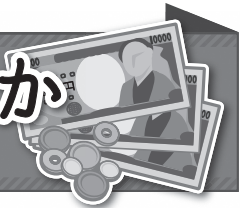
【その他の取り組みについて】

農地の集積を図るため、利用権設定等の書類をとりまとめ、利用集積計画について話し合い、農地利用に係る検討会等を実施し、農地利用の最適化に向けた取り組みを行っています。

農地利用最適化推進委員の日々の活動には、地域のみならずのご理解・ご協力が欠かせません。引き続き、推進委員の活動にご協力をお願いいたします。

農業者年金をご存知ですか

―老後を支える力持ち！農業者年金の加入をお勧めします―

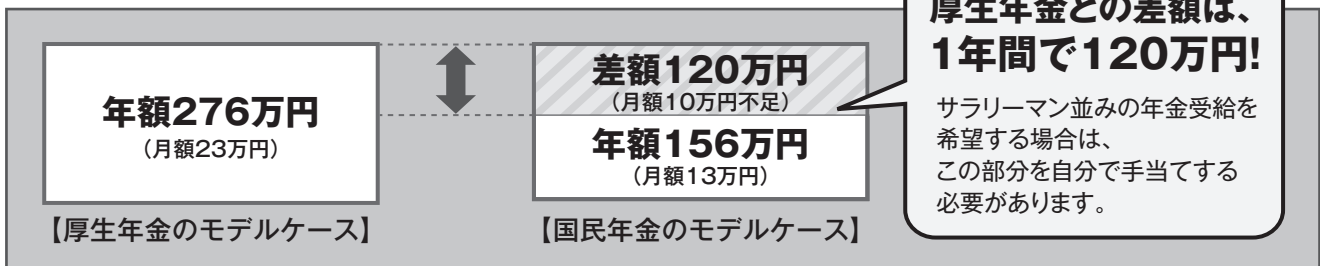


国民年金の年金額は、保険料を20歳から60歳まで40年間支払われた方で、1人月額6万5千円、夫婦2人で月額13万円、**年額で約156万円**となります。

一方、**サラリーマンの厚生年金のモデルケース**では、夫が会社勤めで40年厚生年金に加入、妻は専業主婦で扶養されている配偶者として40年加入の場合で、夫婦2人で月額23万円、**年額で約276万円の年金が見込めます。**

老後の家計費は、夫婦2人で月額23万円、**年額276万円程度**かかっているとの統計から、国民年金だけでは月額10万円ほど不足してしまいます。

そこで、農業者の方がサラリーマン並みの年金を受給するためには、夫婦2人で月額10万円の年金を国民年金に上乗せすることが必要です。



加入前

農業者年金に加入すれば

加入後

今年は収入が良かったけど 税ってこんなににかかるの？ 老後について 考えたいけれど 月々2万円はきついなあ...	支払った保険料は 家族の分も含めて 全額社会保険料 控除の対象 になります。 認定農業者等一定の 要件を満たす担い手には、 保険料の国庫補助があり、 月額基本保険料2万円の うち最高半額の補助を受 けることができます。 (最長20年)	保険料を 控除できて 節税につながるから たすかるなあ! 若いうちから積み立てて おけば老後も安心! 自分が積み立てた 保険料と運用益によって 将来受け取る年金額が 決まるから少子高齢化でも 心配ないね
--	---	--

※農業者年金は、積立方式の終身年金です。

○加入要件

国民年金の1号被保険者で、年間60日以上農業に従事する60歳未満の方なら誰でも加入できるため、女性や若い後継者なども加入できます。

○保険料は自由設定

月額保険料は、2万円～6万7千円の範囲で自由に設定することができます。もちろん途中で増額・減額もOKです。

農業者年金に関心がある方は、お近くのJA窓口、又は農業委員会事務局へお気軽にお問い合わせください。
前橋市農業委員会事務局 農業振興係 TEL027-898-6733



前橋市農業 Instagramを配信しています！

前橋の野菜や花、農作業風景など、旬の農業情報を発信しています。ぜひご覧ください。
いいねやフォローお待ちしております！

アカウント maebashi_agri

お問い合わせ先：前橋市農政課ブランド推進係
(☎027-898-5841)



農業起業家を 募集します

前橋産農林水産物の加工に
取組む農業起業家を募集しま
す。審査を経て登録された人
に、販売会や研修会、補助事
業などの案内をします。詳細
についてはお問い合わせいた
だくか、前橋市ホームページ
をご覧ください。

①要件

前橋産農林水産物を原料
とした加工品創出及び製造
(委託を含む)を行い、直売
所や自宅等で販売をしてい
る前橋市在住の農家

②登録書の配布

市役所農政課のほか、前橋
市ホームページからダウン
ロードもできます

③申込み

必要事項を記入し、同課に
郵送または直接提出してく
ださい

【お問い合わせ先】

前橋市農政課ブランド推進係
Tel 027・898・5841



ご存知ですか

多面的機能支払交付金制度

多面的機能支払交付金の構成・活動内容

多面的機能支払交付金は、農地維持支払交付金と資源向上支払交付金から構成されます。

(1) 農地維持支払交付金

① 地域資源の基礎的な保全活動

地域共同で行う農地周り・水路・農道・ため池等の草刈りや泥上げなどの活動。

② 地域資源の適切な保全管理のための推進活動

地域住民による意見交換など。

(2) 資源向上支払交付金(共同活動)

① 施設の軽微な補修

水利施設等の機能診断、部分補修。

② 農村環境保全活動

生態系保全、景観形成などの農村環境の保全を図るための活動。

(3) 資源向上支払交付金

(施設の長寿命化)

老朽化が進む農業用排水路、ため池などの補修、更新。

また、(1)、(2)、(3)に関する会議、研修会等も対象となります。

多面的機能支払交付金制度を活用するには

多面的機能支払交付金制度は、個人は対象となりませんので、活動に参加してもらえらる地域団体や個人を集めて活動組織を設立し、規約、事業計画などを策定する必要があります。

活動は、5年間継続することが条件です。

【対象地域】

活動区域(自治会、水利受益等)を設定していただき、その区域内の農地や水路等が対象となります。

【交付金額等】

(1)、(2)、(3)の活動及び活動区域内の農振農用地面積に応じて活動組織に交付されます。

新たな活動組織を設立するときは、規約、事業計画の策定などを市がサポートします。

【お問合せ先】

前橋市農村整備課
農村保全係

TEL 027・898・6712



中山間地域等 直接支払交付金制度

中山間地域等直接支払交付金制度は、平地に比べて傾斜地が多いなど農業生産条件が不利な地域において、国から交付金を受けられる制度です。農業を継続することにより農地を保全し、耕作放棄地の発生を防ぎ、農村の持つ多面的機能を維持・確保するための活動を支援します。

中山間地域の集落等にお



いて農地、水路などを維持・管理をしていくための取り決め(協定)を締結し、それにしたがって農業生産活動等を行うことにより、対象となる農地面積に応じて一定額を交付します。

協定とは5年間を単位として、一定の傾斜を持つ1ha以上の農用地を有する集落で農業生産活動等を継続するために、水路・農道等の管理方法や活動の役割等を定め、共同活動を実施するものです。

交付金は共同活動に充てるほか、協定参加者の農地面積に応じて個人に配分することもできます。

『前橋市の対象地域』

宮城地区、富士見地区内の農業振興地域

(群馬県特認地域)

【お問い合わせ先】

前橋市農村整備課
農村保全係

TEL 027・898・6713

農地法第3条 第2項第5号に 規定のある 下限面積を 40アールに

農地を耕作目的で売買、贈与、賃貸借等により権利を取得するには、農地法第3条に「権利取得後の耕作の事業に要すべき農地の下限面積が50アール以上」と定められていますが、平成21年の改正農地法により、農業委員会が下限面積を設定することが出来るようになりました。

前橋市農業委員会では9月の総会で、平成30年10月1日より下限面積を40アールに引き下げました。これにより、農地の取得や貸し借りの条件が緩和されました。

【お問い合わせ先】

前橋市農業委員会事務局
農地係
TEL 027・898・6734

農業用軽油 免税証の 交付申請の際に 耕作証明書等の 提出が必要です

県税事務所へ農業用軽油免税証の交付申請の際に、「耕作証明書」及び「農地台帳の写し」が必要になりますので、市役所7階農業委員会事務局までお越しください。

「耕作証明書」及び「農地台帳の写し」の請求手続きには、本人を確認出来る、免許証（又は保険証）と手数料350円が必要です。

また、本人が来られない時は、委任状と受任者の免許証（又は保険証）が必要になります。

なお、農業用軽油免税証の交付申請以外で「耕作証明書」のみが必要な時は、支所・市民サービスセンター（前橋プラザ元気21及びコミュニティセンターを除く）で発行が出来ます。

【お問い合わせ先】

農業委員会事務局管理係
TEL 027・898・6732

あきもと汁



材料 4人分

大根	80g	豆腐	80g
にんじん	60g	サラダ油	小さじ 2
ごぼう	40g	だし汁	600ml
里芋	60g	しょうゆ	大さじ 1
長ねぎ	30g		
こんにゃく	100g		
油揚げ	10g		
ちくわ	40g		



まえばしの 郷土料理

総社地区に伝わる「あきもと汁」は、具沢山で野菜の旨みたっぷりの優しい味わいです。総社藩主 秋元公の好物だったと言われている「ちくわ」が入っていることが特徴です。

作り方

- ①大根、にんじん、ごぼうはうす切りにする。里芋はひと口大に切る。長ねぎは大きめの小口切りにする。こんにゃく、油揚げは短冊切りにする。ちくわは輪切りにする。
- ②鍋に油を熱し、長ねぎ以外の野菜とこんにゃくを入れてよく炒め、だし汁を入れる。
- ③野菜に火が通ったら長ねぎと油揚げ、ちくわを加え、しょうゆを入れて弱火で煮込む。
- ④火を止める直前に角切りにした豆腐を入れる。



ご協力いただいた
総社地区
食生活改善推進委員の
皆さん

